

平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年10月14日

上場会社名 株式会社買取王国 上場取引所 東  
 コード番号 3181 URL http://www.okoku.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)長谷川 和夫  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)壬生 順三 (TEL)052-304-7851  
 四半期報告書提出予定日 平成28年10月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の業績（平成28年3月1日～平成28年8月31日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第2四半期	2,405	△12.3	△58	—	△52	—	△39	—
28年2月期第2四半期	2,742	3.0	46	△39.6	52	△37.5	26	△41.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第2四半期	△22.38	—
28年2月期第2四半期	15.29	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年2月期第2四半期	3,430	1,701	49.6	969.16
28年2月期	3,348	1,741	52.0	991.54

(参考) 自己資本 29年2月期第2四半期 1,701百万円 28年2月期 1,741百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年2月期	—	0.00			
29年2月期(予想)			—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年2月期の業績予想（平成28年3月1日～平成29年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,900	△13.9	39	△78.7	48	△75.8	47	△36.3	27.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## ※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
詳細は、添付資料P. 4「サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）四半期財務諸表の作成に特有の会社処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年2月期2Q	1,756,000株	28年2月期	1,756,000株
29年2月期2Q	—株	28年2月期	—株
29年2月期2Q	1,756,000株	28年2月期2Q	1,756,000株

## ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府政策による所得雇用環境の改善など緩やかな回復が見られたものの、円高、株安の進行、海外経済の下振れの影響により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の下、健全かつ強靱な企業体制を作り上げるため、当社は痛みを覚悟した聖域なき構造改革を力強く推進してまいりました。

人事政策においては、会社の生命線である主力商材たるファッション、ホビーのバイヤー育成に務めてまいりました。前事業年度末に新人事制度を導入し、中堅幹部以上の入替を行うことにより、人数において多くを占める20～30歳代の社員全体の士気向上を図りました。

IT政策においては、前々事業年度より開発を進めてきた新店舗管理システムを導入し、運用の定着に努めております。新店舗管理システムによりバイヤー軸での業績管理が可能となり、その結果を従業員評価に直結させることにより前述の新人事制度と相俟って従業員の闘争心に火をつけ、社員の活躍に繋げていきたいと考えております。また、社員バイヤー力向上により、迅速かつ正確な買取査定による査定待ち時間の短縮、適時適切にお客様にとって有用な情報の提供等、更なる顧客満足度の向上が期待できます。

店舗政策においては、積極的にスクラップアンドビルドを進めてまいりました。関西地域の買取王国枚方店（大阪府枚方市）を平成28年7月24日に、買取王国寝屋川店（大阪府寝屋川市）を平成28年8月16日に閉店いたしました。また、開店以来、業績が低迷しておりました買取王国熱田一番店（名古屋市熱田区）、Reco浄心店（名古屋市西区）の退店を決定いたしました。その一方で、従来のイメージを一新するファッション専門店として“WHY NOT”（名古屋市中区）を名古屋市の中心部にオープンいたしました。また、アウトレット業態のマイシユウサガールヨシツヤ清洲店（愛知県清須市）の出店を平成28年10月下旬に予定しております。

売上高については、主力商材であるファッションが前年を下回り、売場の縮小を戦略的に進めているゲーム等パッケージメディア関連の減少及びブランド、高級時計、携帯電話などの落込みをカバーすることができず、前年同期を下回ることとなりました。

利益面については、経費の削減に積極的に取り組んだものの、新店舗管理システムの導入費用の増加や、積極的なスクラップアンドビルドに伴う撤去費用や新規出店費用の発生により、販売費及び一般管理費が収益減少相応に削減できず、前年同期を下回ることとなりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,405百万円（前年同期比12.3%減）、営業損失は58百万円（前年同期は営業利益46百万円）、経常損失は52百万円（前年同期は経常利益52百万円）、四半期純損失は39百万円（前年同期は四半期純利益26百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

流動資産は、前事業年度末と比べて10百万円減少し、2,077百万円となりました。これは、現金及び預金が123百万円減少した一方、商品が118百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は、前事業年度末と比べて92百万円増加し、1,353百万円となりました。これは、有形固定資産が68百万円及び無形固定資産が29百万円増加したことなどによるものです。

この結果、総資産は前事業年度末と比べて82百万円増加し、3,430百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前事業年度末と比べて15百万円増加し、739百万円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金64百万円増加した一方、未払法人税等が16百万円減少したことなどによるものです。

固定負債は、前事業年度末と比べて106百万円増加し、989百万円となりました。これは、長期借入金103百万円増加したことなどによるものです。

この結果、負債合計は前事業年度末と比べて121百万円増加し、1,728百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前事業年度末と比べて39百万円減少し、1,701百万円となりました。これは、四半期純損失により利益剰余金が39百万円減少したことによるものです。

②(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末と比べて123百万円減少し、904百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、流出した資金は122百万円(前年同期は6百万円の資金増)となりました。これは主に、税引前四半期純損失65百万円、たな卸資産の増加額118百万円、及び法人税等の支払額13百万円により資金が減少した一方、減価償却費の計上57百万円及び売上債権の減少額41百万円により資金が増加したことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は168百万円(前年同期比31.0%減)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出119百万円、無形固定資産の取得による支出63百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は167百万円(前年同期は46百万円の資金減)となりました。これは主に、長期借入れによる収入400百万円により資金が増加した一方で、長期借入金の返済による支出232百万円により資金が減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月14日に公表した第2四半期累計期間及び通期の業績予想を最近の業績の動向等を踏まえ、修正いたしました。詳細は、10月7日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算について

四半期税金費用の計算は、税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 1. 減価償却方法の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

#### 2. たな卸資産の評価方法の変更

当社における商品の評価方法は、移動平均法による原価法を採用しておりましたが、当第2四半期会計期間より、個別法による原価法に変更しております。

この変更は、当第2四半期会計期間において新店舗管理システムが全店稼働したことを機に、たな卸資産評価及び期間損益計算をより適正に行うことを目的としたものであります。

過去の事業年度については個別法による単価計算を行うために必要な在庫受払記録を保持していないため、この会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を算定することは、実務上不可能であり、遡及適用は行っておりません。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,027,361	904,094
受取手形及び売掛金	135,907	94,208
商品	826,219	944,503
その他	98,159	134,679
流動資産合計	2,087,647	2,077,486
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	161,498	172,064
土地	280,342	280,342
その他(純額)	84,079	142,324
有形固定資産合計	525,919	594,730
無形固定資産	227,254	257,014
投資その他の資産		
投資有価証券	102,694	102,460
関係会社株式	21,000	21,000
差入保証金	281,603	275,496
その他	102,114	102,439
投資その他の資産合計	507,412	501,396
固定資産合計	1,260,586	1,353,140
資産合計	3,348,233	3,430,627
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,550	15,529
1年内返済予定の長期借入金	411,359	475,724
未払法人税等	16,837	—
賞与引当金	13,926	15,607
ポイント引当金	35,306	35,231
その他	235,018	197,180
流動負債合計	723,997	739,272
固定負債		
長期借入金	769,450	873,074
退職給付引当金	28,600	28,100
資産除去債務	84,899	88,186
その他	150	150
固定負債合計	883,099	989,510
負債合計	1,607,097	1,728,782
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	330,319	330,319
資本剰余金	260,319	260,319
利益剰余金	1,150,498	1,111,206
株主資本合計	1,741,136	1,701,844
純資産合計	1,741,136	1,701,844
負債純資産合計	3,348,233	3,430,627

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
売上高	2,742,840	2,405,025
売上原価	1,286,702	1,086,339
売上総利益	1,456,138	1,318,685
販売費及び一般管理費	1,409,941	1,376,857
営業利益又は営業損失(△)	46,196	△58,172
営業外収益		
受取利息	447	968
受取手数料	9,059	7,525
その他	2,044	1,717
営業外収益合計	11,551	10,212
営業外費用		
支払利息	4,696	3,852
その他	281	338
営業外費用合計	4,977	4,190
経常利益又は経常損失(△)	52,770	△52,150
特別損失		
固定資産除却損	537	1,608
減損損失	6,002	12,134
特別損失合計	6,539	13,742
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	46,231	△65,893
法人税等	19,384	△26,601
四半期純利益又は四半期純損失(△)	26,846	△39,292



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	46,231	△65,893
減価償却費	35,593	57,285
減損損失	6,002	12,134
賞与引当金の増減額(△は減少)	△213	1,680
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△2,030	△74
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△100	△500
受取利息及び受取配当金	△447	△969
支払利息	4,696	3,852
固定資産除却損	537	1,608
売上債権の増減額(△は増加)	24,010	41,698
たな卸資産の増減額(△は増加)	75,429	△118,283
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,003	3,979
未払金の増減額(△は減少)	△27,057	△7,288
その他	△92,190	△35,964
小計	68,457	△106,734
利息及び配当金の受取額	99	1,203
利息の支払額	△5,227	△3,829
法人税等の支払額	△56,775	△13,074
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,553	△122,435
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△43,537	△119,377
有形固定資産の売却に係る手付金収入	—	10,800
無形固定資産の取得による支出	△82,929	△63,220
投資有価証券の取得による支出	△103,046	—
差入保証金の差入による支出	△8,400	△49
差入保証金の返還による収入	—	6,036
子会社株式の取得による支出	△6,000	—
その他	△887	△3,008
投資活動によるキャッシュ・フロー	△244,800	△168,819
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	200,000	400,000
長期借入金の返済による支出	△246,084	△232,011
財務活動によるキャッシュ・フロー	△46,084	167,989
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△284,330	△123,266
現金及び現金同等物の期首残高	1,160,882	1,027,361
現金及び現金同等物の四半期末残高	876,551	904,094

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。